

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成24年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成24年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 24 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 24 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 24 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	150

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成24年4月～6月)の調査において、産業全体の業況D Iは、東日本大震災からの復興基調が継続しており、前期より2.8ポイント改善し△10.3(前期△13.1)となった。

建設業は、全国的には民間・公共事業ともに減少し停滞気味に推移するなか、本県は震災の復旧工事が続いており、完成工事D Iは70.9(前期37.6)と33.3ポイント改善し、全国値を83.0ポイントと大きく上回った。

小売業は、売上額D Iが△6.9(前期△6.8)と0.1ポイント悪化したが、依然として全国値を30.7ポイント上回っており、採算D Iは3.5ポイント改善し全国値を13.2ポイント上回った。

サービス業は、売上額D Iが4.9ポイント改善したが、採算D Iは△29.2(前期△17.0)と12.2ポイント悪化し、全国値よりも僅少であるが1.7ポイント下回った。

製造業は、復興の遅れが感じられていたが、今期は売上D Iが11.7(前期△27.2)と38.9ポイント改善し、全国値を26.6ポイント上回り、その結果、宮城は売上額D I、採算D Iにおいてサービス業の採算を除いた全ての項目で全国を上回った。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iは、製造業においては38.9ポイント、建設業は33.3ポイント、サービス業は4.9ポイント改善したが、小売業が0.1ポイントと若干悪化し、全産業D Iとしては9.3(前期△6.2)と15.5ポイント改善した。

② 採算の状況

採算D Iは、製造業において21.3ポイント、小売業は3.5ポイント、建設業が0.9ポイント改善したが、サービス業は12.2ポイント悪化し、全産業D Iとしては△17.7(前期△19.5)と1.8ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、建設業は29.2%で前期と比較し9.2ポイント、サービス業は20.4%で9.8ポイント増加し、製造業は14.7%で前期と比較し2.9ポイント、小売業は7.0%で2.1ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事額）D I は、東北が全国を上回り、宮城がサービス業を除き東北を上回る形となった。

特に宮城の建設業は70.9（前期37.6）と33.3ポイント改善し、全国を83.0ポイントと大幅に上回った。小売業も宮城は△6.9（前期△6.8）となり0.1ポイント悪化した。全国を依然30.7ポイント上回り、サービス業も宮城は△8.2（前期△13.1）と4.9ポイント改善し全国を11.3ポイント上回った。

回復の遅れていた宮城の製造業も11.7（前期△27.2）となり38.9ポイント改善し、全国を26.6ポイント上回った。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 22.9	△ 14.9	△ 17.4	△ 9.1	△ 27.2	11.7
建 設 業	△ 17.9	△ 12.1	5.5	17.4	37.6	70.9
小 売 業	△ 43.8	△ 37.6	△ 32.7	△ 20.9	△ 6.8	△ 6.9
サービス業	△ 33.6	△ 19.5	△ 26.1	△ 3.3	△ 13.1	△ 8.2

② 採 算

採算D Iは売上額D Iよりも厳しい数値となり、売上額の増加がそのまま収益の増加に連動していない状況が窺えたが、東北が全国を上回り、宮城はサービス業を除き東北を上回る形は同様であった。

宮城の建設業は全国を47.3ポイントと大きく上回り、小売業も13.2ポイント、製造業も4.9ポイント上回ったが、サービス業のみはD Iが△29.2（前期△17.0）と12.2ポイント悪化し全国を1.7ポイント下回り、東北を10.0ポイント下回った。

表二 採算の状況（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 30.2	△ 23.0	△ 29.1	△ 21.4	△ 39.4	△ 18.1
建 設 業	△ 29.1	△ 26.4	△ 13.7	△ 6.0	20.0	20.9
小 売 業	△ 45.8	△ 39.3	△ 41.0	△ 30.5	△ 29.6	△ 26.1
サービス業	△ 37.5	△ 27.5	△ 28.1	△ 19.2	△ 17.0	△ 29.2

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）D I の来期見通しは、今期もD I を大きく改善させた建設業が 58.4 ポイント、小売業は 23.3 ポイント、サービス業も 6.1 ポイント、製造業も 5.8 ポイント悪化すると予測され、県内すべての産業が悪化する見通しとなった。

採算D I の来期見通しについても建設業が 12.6 ポイント、サービス業は 1.4 ポイント悪化すると予測され、製造業は 3.0 ポイント、小売業は 0.6 ポイント改善すると予測された。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）D I については、全国、宮城ともに全ての産業で悪化が見込まれ、全体的には小幅な悪化予測となっているが宮城の建設業、小売業については大幅な悪化予測となった。しかしながら、来期においても宮城が全国を全ての産業でD I が上回る見通しとなった。

採算D I については、全国の建設業、宮城の建設業とサービス業が悪化すると予測され、その他は改善すると予測された。また、来期もD I はサービス業を除き宮城が全国を上回る見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 14.9	△ 18.5	11.7	5.9
建 設 業	△ 12.1	△ 21.1	70.9	12.5
小 売 業	△ 37.6	△ 40.1	△ 6.9	△ 30.2
サービス業	△ 19.5	△ 22.8	△ 8.2	△ 14.3

表－4 採算来期見通し (D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 23.0	△ 21.3	△ 18.1	△ 15.1
建 設 業	△ 26.4	△ 27.8	20.9	8.3
小 売 業	△ 39.3	△ 36.9	△ 26.1	△ 25.5
サービス業	△ 27.5	△ 25.9	△ 29.2	△ 30.6

2. 県下産業別の景況

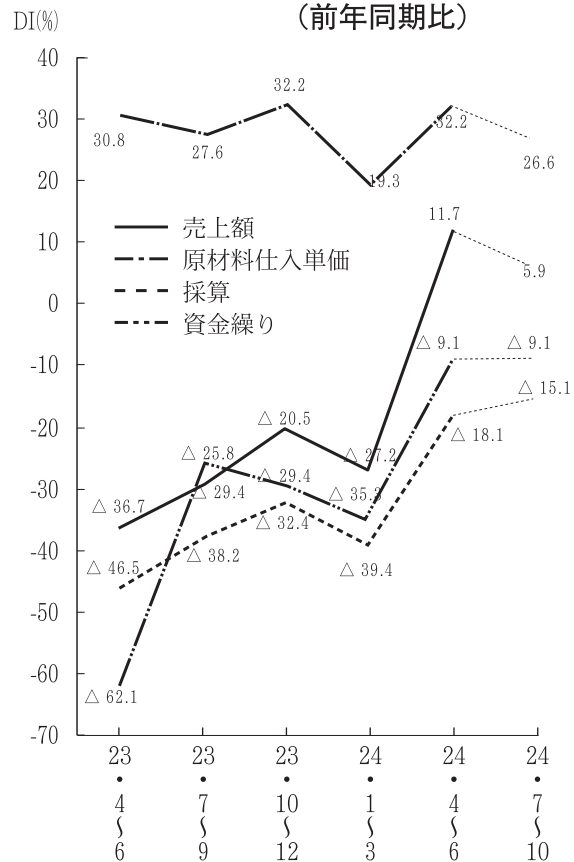
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、対比が震災直後との比較になるため、数値の判断が難しいが、売上（加工）額D Iは今期 11.7(前期△27.2)となり 38.9ポイント、採算D Iも 21.3ポイント、資金繰りD Iも 26.2ポイントと大きく改善した。

原材料仕入単価は 32.2(前期 19.3)と 12.9ポイント悪化し、原材料の高止まりが続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



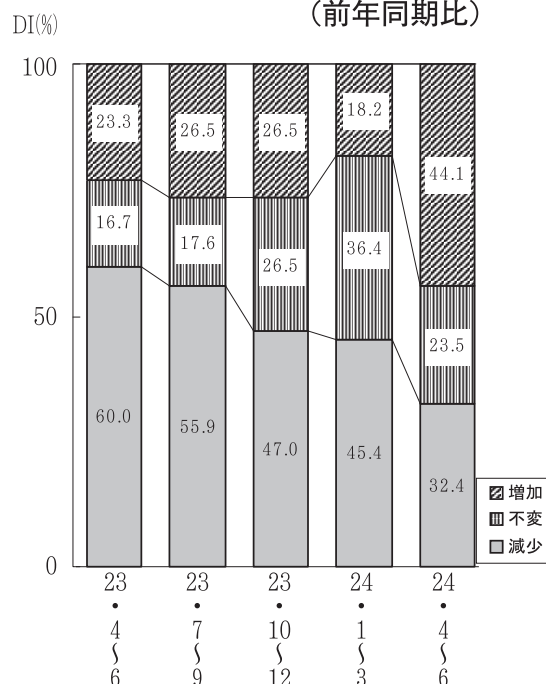
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の 44.1% (前期 18.2%) と 25.9ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は 32.4%(前期 45.4%)と 13.0ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは 11.7(前期△27.2)となり前期比 38.9ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

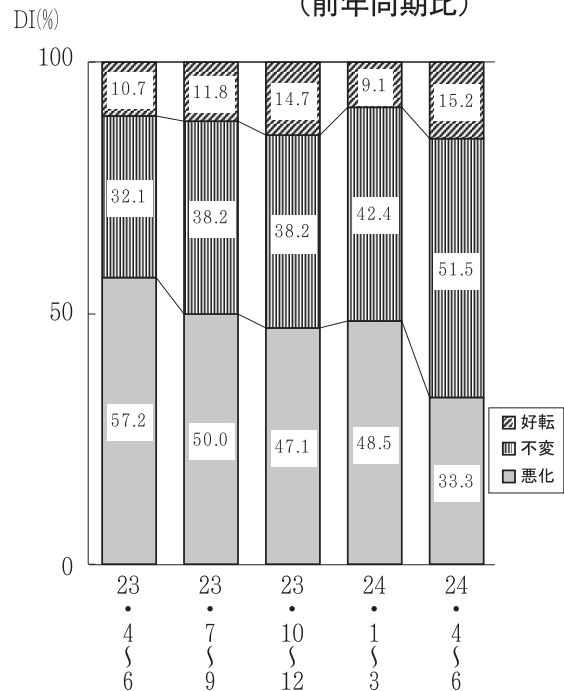


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の15.2%(前期 9.1%)で6.1ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は33.3%(前期 48.5%)で15.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは△18.1(前期△39.4)となり前期比21.3ポイント改善した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



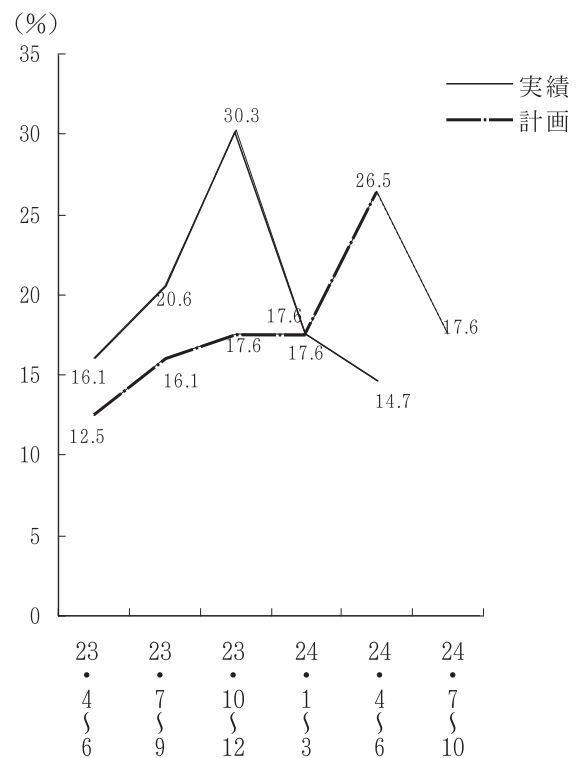
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の14.7%(前期 17.6%)で2.9ポイント減少した。

その設備内容は生産設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の17.6%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図1-4 設備投資の状況

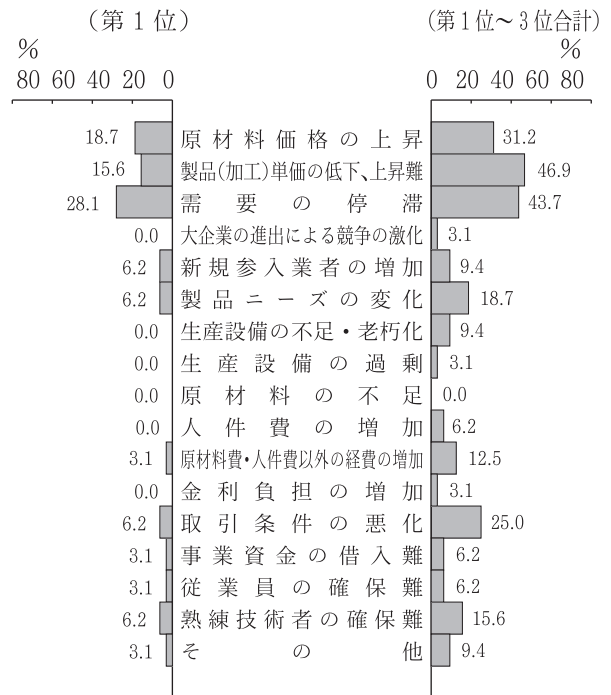


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(28.1%)、次いで「原材料価格の上昇」(18.7%)、そして「製品(加工)単価の低下、上昇難」(15.6%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(46.9%(複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(43.7%)、「原材料価格の上昇」(31.2%)、「取引条件の悪化」(25.0%)と続いた。

図1-5 経営上の問題点

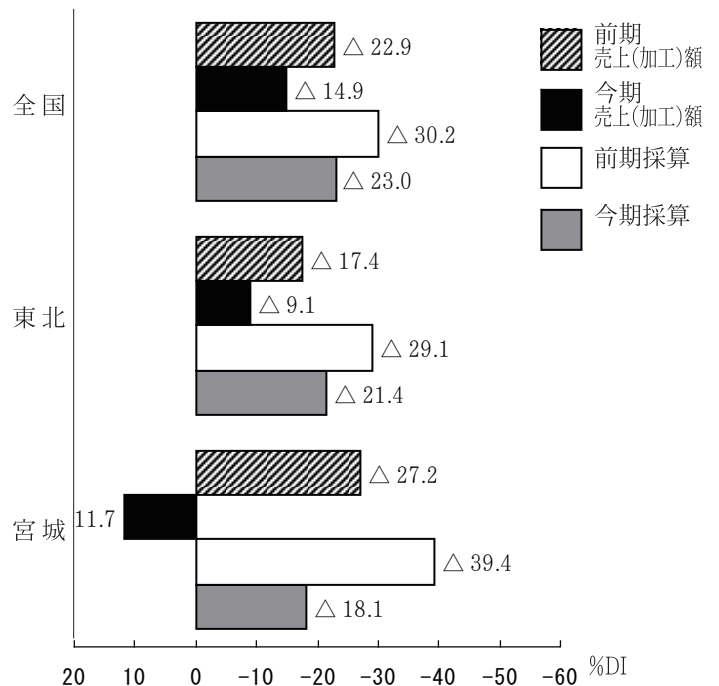


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国的には、円高、電力不足、元請け企業の海外移転、原油高騰と厳しい環境下にあるが、東北、特に宮城は東日本大震災からの復興の動きが顕著であり今期の売上DI、採算DIの回復に反映され、全国、東北を上回った。

しかしながら、本県回答事業所から「欧州の金融不安から今後の受注見通しが不透明となっている」とのコメントも寄せられ、先行きは不透明な景況感となっている。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



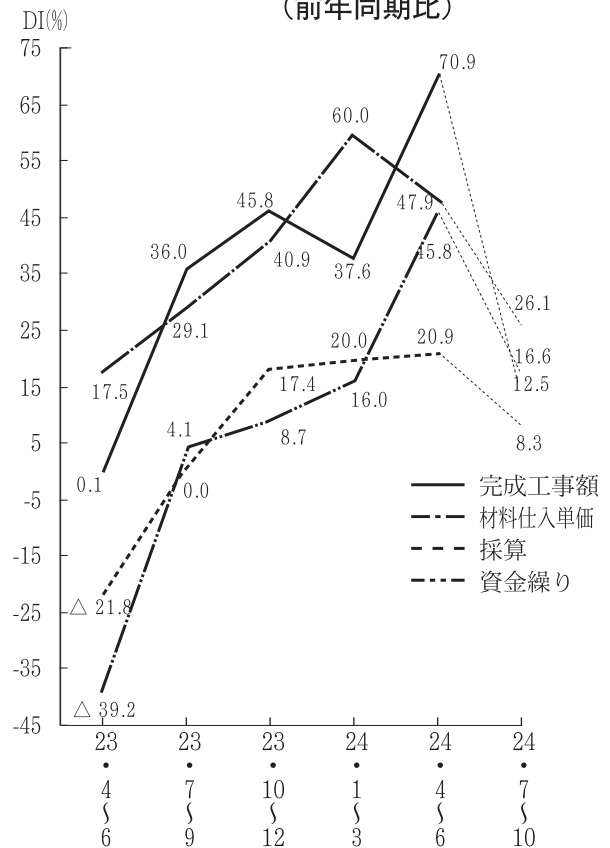
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは70.9（前期37.6）で33.3ポイント改善し、前期は若干低迷したが、今期再び騰勢を取り戻した。資金繰りD Iも29.8ポイント、採算D Iも0.9ポイント改善した。

懸念されていた材料仕入単価D Iも47.9（前期60.0）で12.1ポイント下がり、落ち着きを取り戻し、宮城の建設業は全ての主要景況項目を改善させた。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



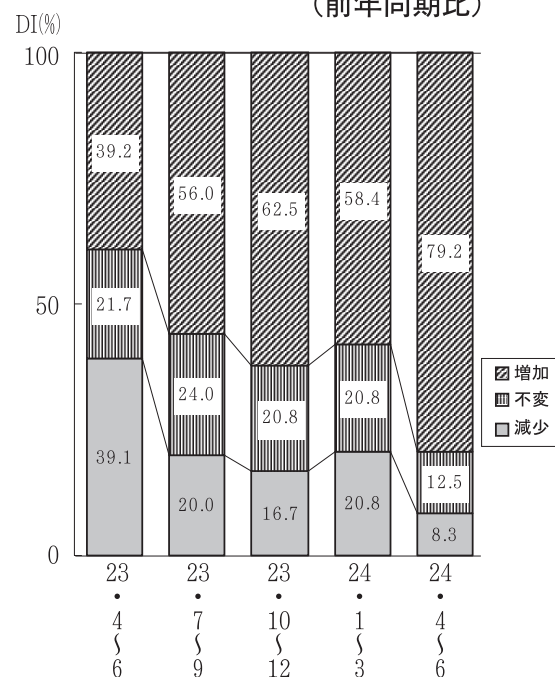
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の79.2%（前期58.4%）であり、20.8ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は8.3%（前期20.8%）と12.5ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは70.9（前期37.6）と33.3ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

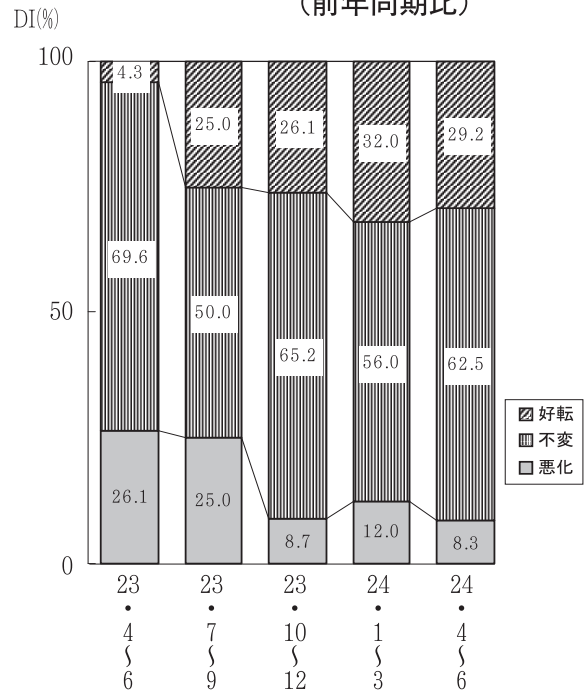


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の29.2%（前期32.0%）であり2.8ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の8.3%（前期12.0%）であり、3.7ポイント減少した。

その結果、採算DIは20.9（前期20.0）となり、前期比0.9ポイント改善した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



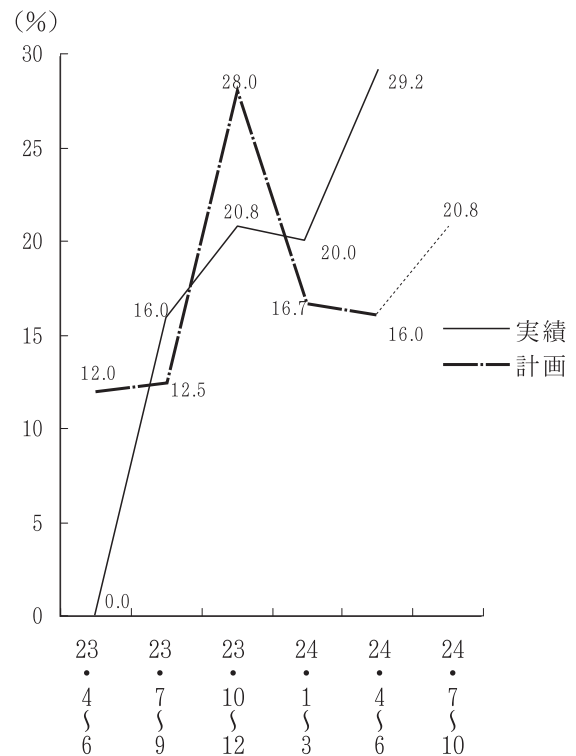
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の29.2%（前期20.0%）で9.2ポイント増加した。

その設備内容は建設機械、車両・運搬具、であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の20.8%で、その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設となっている。

図2-4 設備投資の状況

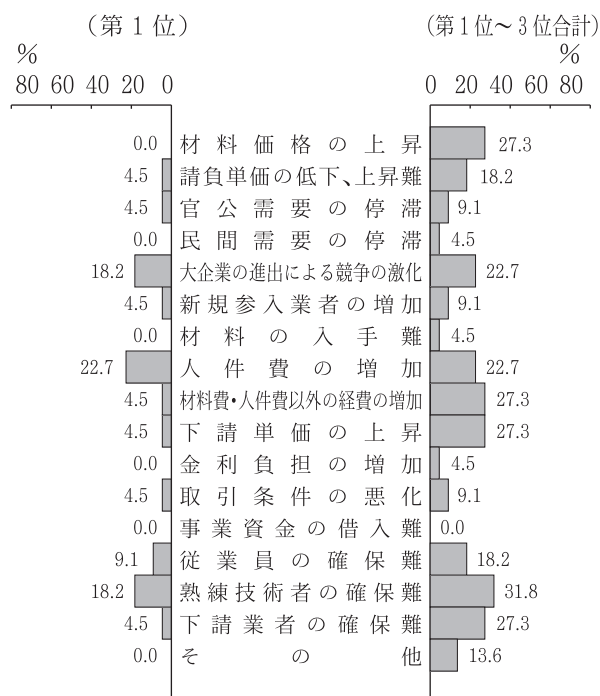


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「人件費の増加」(22.7%)、次いで「熟練技術者の確保難」と「大企業進出による競争の激化」が18.2%と同率となり続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「熟練技術者の確保難」(31.8% (複数回答以下同じ))、次いで「材料費・人件費以外の経費の増加」、「下請単価の上昇」、「下請業者の確保難」、「材料価格の上昇」が27.3%と同率となり、「人件費の増加」(22.7%)と続いた。

図2-5 経営上の問題点

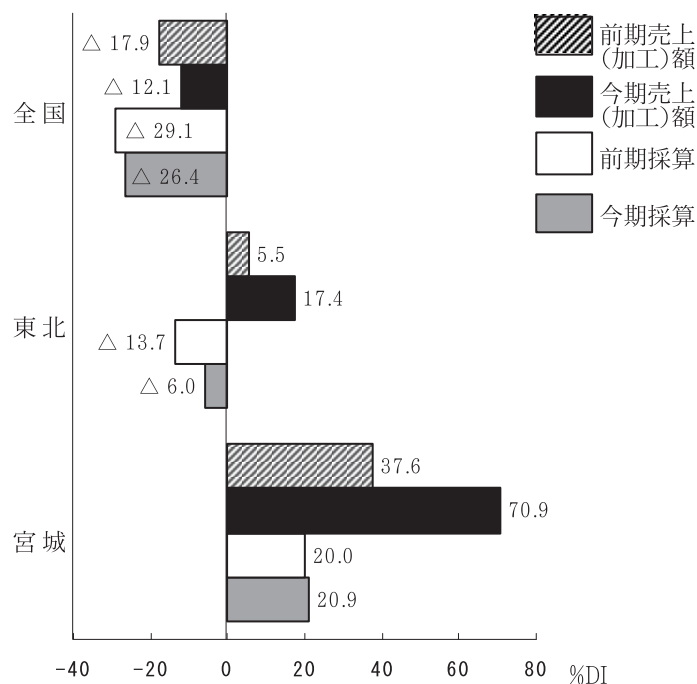


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

建設業は、全国的には民間・公共事業ともに減少し低迷傾向にある中、東北は復興需要による好調さを維持しており、特に宮城は8割の事業所が前年対比売上を増加させた。

本県回答事業所からは「人件費が増加したが、受注量も増加しているため収益面への影響は少なかった」など堅調さを裏付けるコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較

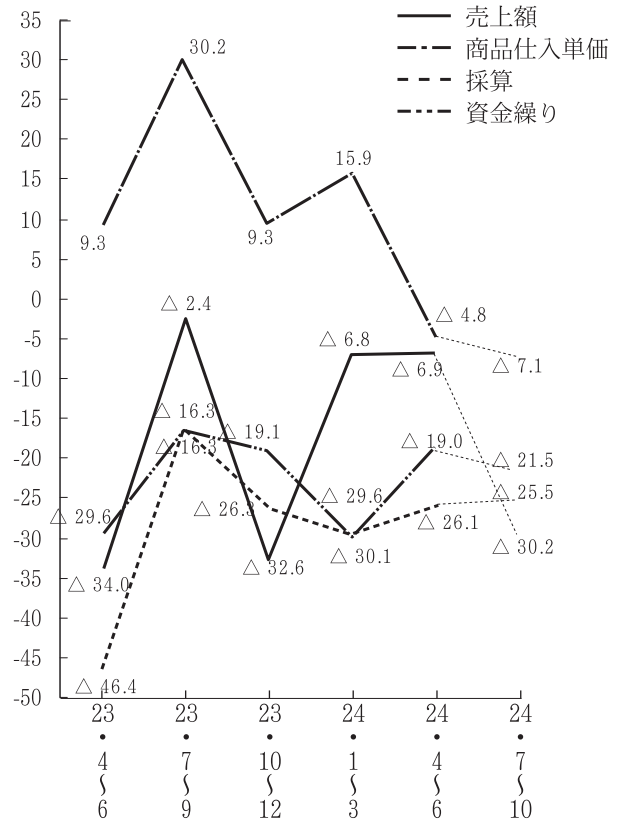


(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△6.9（前期△6.8）と伸び悩んだが、採算D Iは△26.1（前期△29.6）で3.5ポイント、資金繰りD Iは△19.0（前期△30.1）と11.1ポイント改善し、高止まり感のあった商品仕入単価D Iは△4.8（前期15.9）と20.7ポイント下がり、落ち着きを取り戻した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



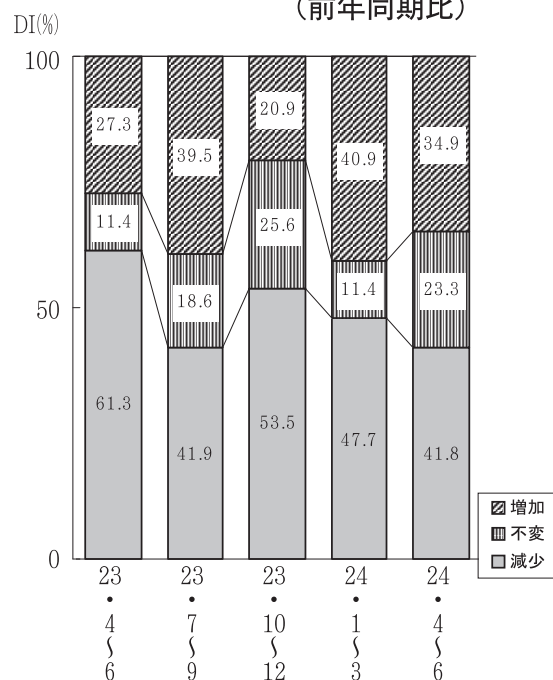
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の34.9%（前期40.9%）と6.0ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は全体の41.8%（前期47.7%）と5.9ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△6.9（前期△6.8）と前期比0.1ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

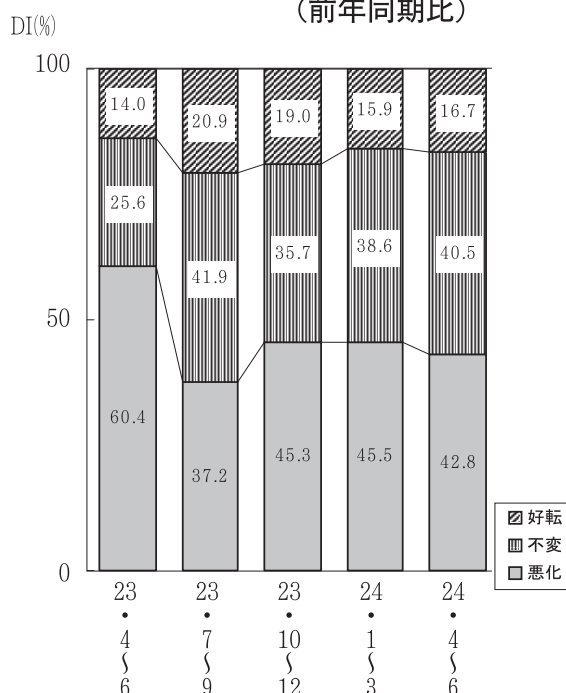


(b) 採算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の16.7%（前期15.9%）と0.8ポイント増加し、「悪化・低下」の回答も全体の42.8%（前期45.5%）で2.7ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△26.1（前期△29.6）となり、前期比3.5ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



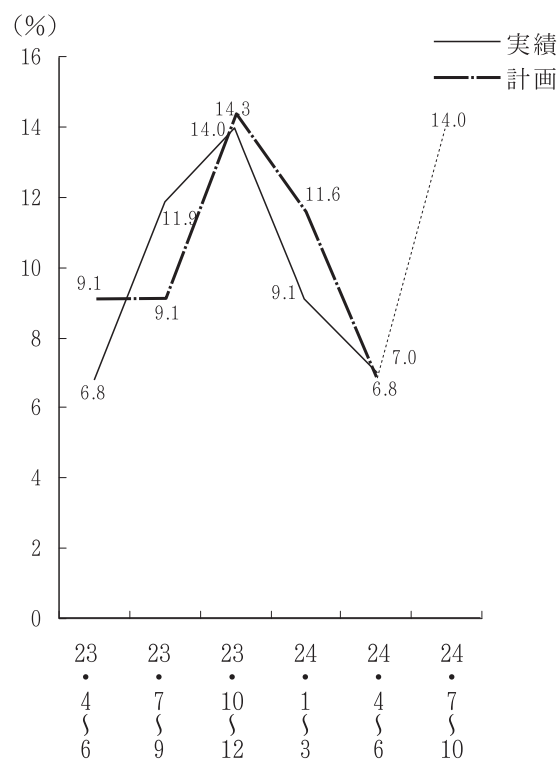
(c) 設備投資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の7.0%（前期9.1%）で、2.1ポイント減少した。

その設備内容は販売設備、車両・運搬具、その他であった。

来期に設備計画している企業は14.0%で、その内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器を想定している。

図3-4 設備投資の状況

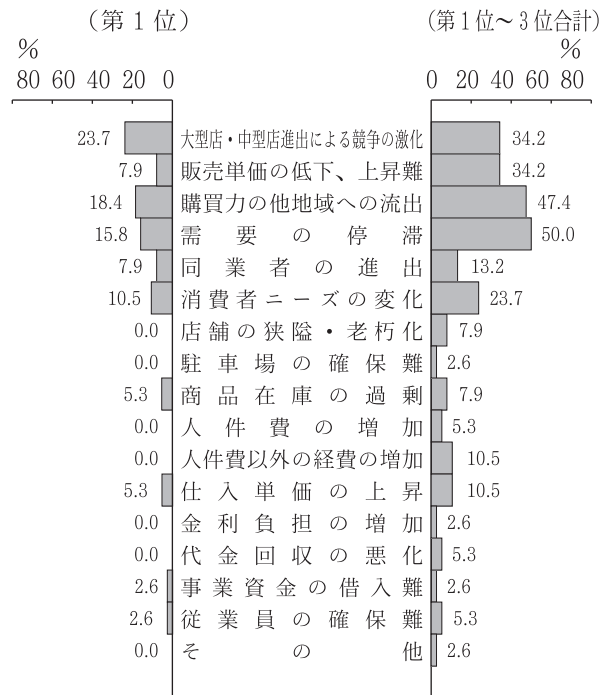


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.7%)、次いで「購買力の他地域への流出」(18.4%)、「需要の停滞」(15.8%)、「消費者ニーズの変化」(10.5%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」(50.0% (複数回答以下同じ))、「購買力の他地域への流出」(47.4%)、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「販売単価の低下、上昇難」が34.2%と同率で続いた。

図3-5 経営上の問題点

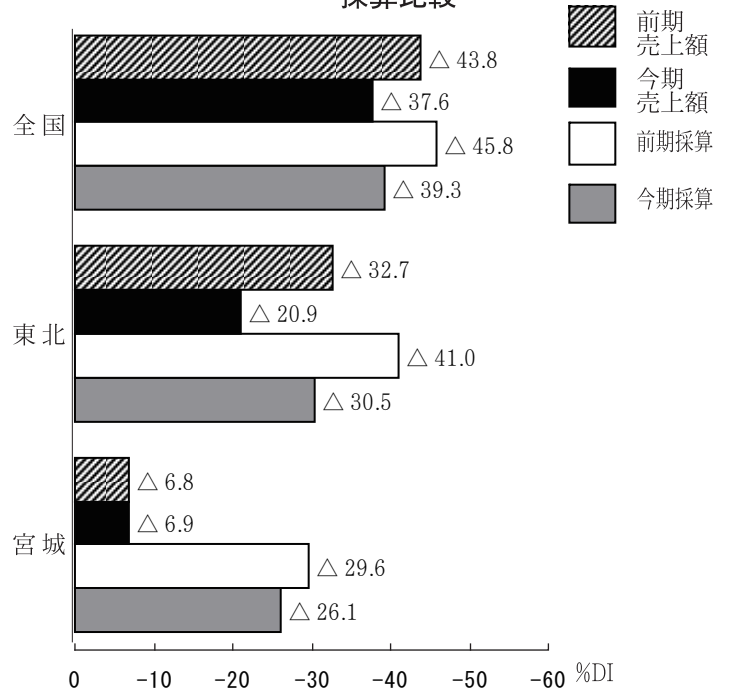


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国的に消費低迷が続く中、持ち直しの動きが見られ、全国、東北は売上額DI、採算DIを改善させた。

宮城は前年同期比が震災直後との比較になるため、数値の判断が難しいが、本県回答事業所から「これまで長い間取引を行っていた得意先が廃業し、売上が減少した」(酒飯店)、反面「住宅関連商品の需要が好調」(金物小売業)とのコメントが寄せられ、業種や業態により景況感が分かれることが窺えた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



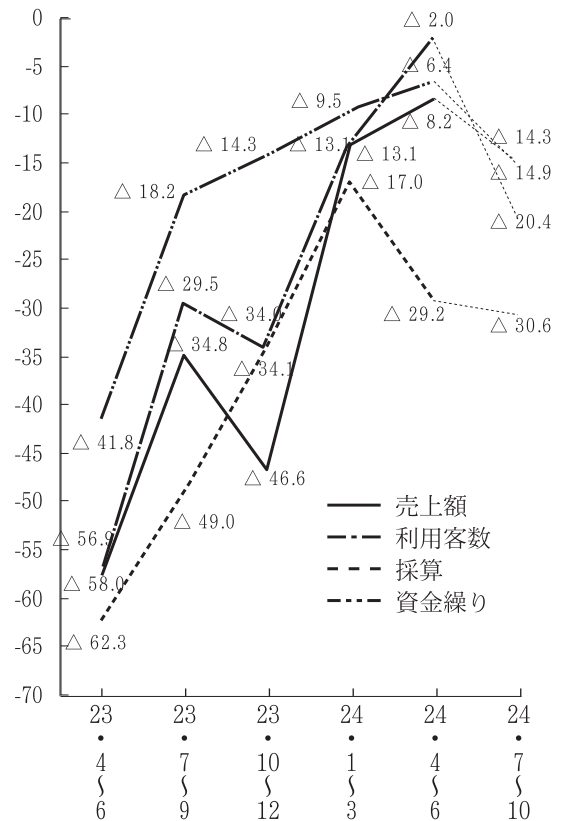
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは△8.2（前期△13.1）で4.9ポイント、利用客数D Iは△2.0（前期△13.1）で11.1ポイント、資金繰りD Iも△6.4（前期△9.5）と3.1ポイント改善し、それぞれ震災後最も高いD Iとなった。

しかし、採算D Iは△29.2（前期△17.0）と12.2ポイント悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



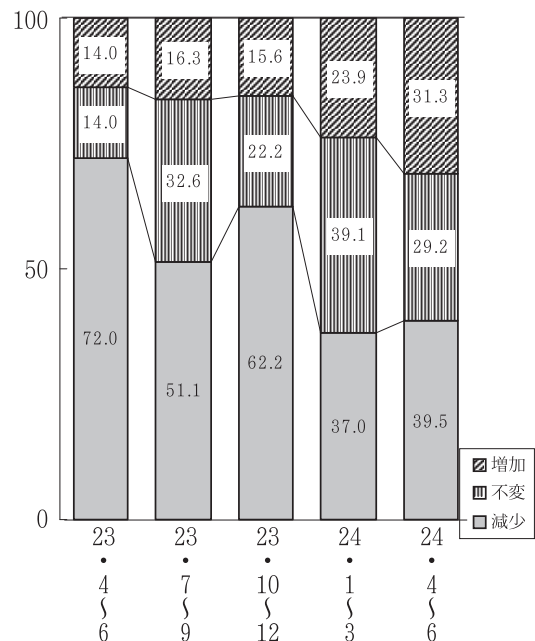
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の31.3%（前期23.9%）で7.4ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は39.5%（前期37.0%）で、2.5ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは△8.2（前期△13.1）で前期比4.9ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

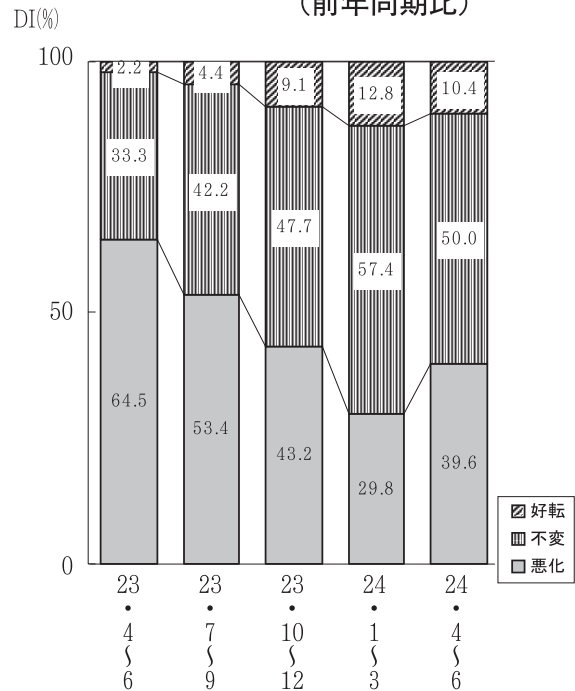


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の10.4%(前期12.8%)で2.4ポイント減少し、「低下・悪化」と回答した企業は39.6%(前期29.8%)と9.8ポイント増加した。

その結果、採算DIは△29.2(前期△17.0)となり、前期比12.2ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



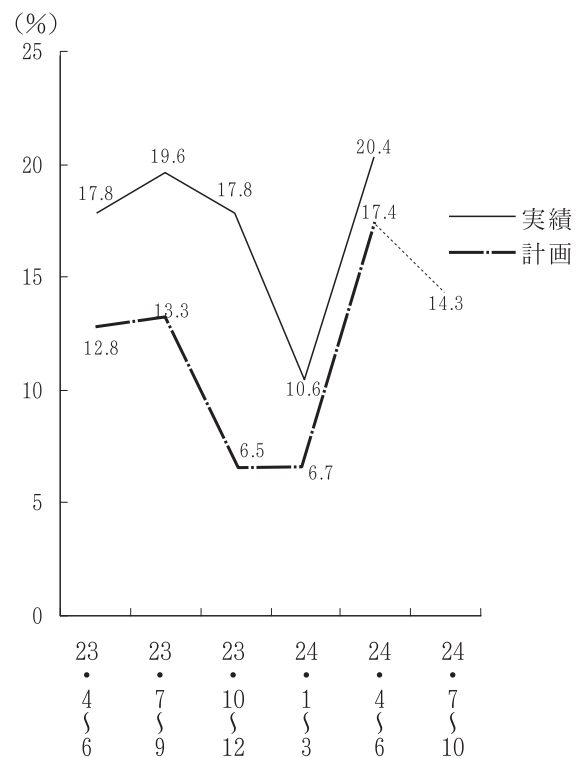
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の20.4%(前期10.6%)で9.8ポイント増加した。

その設備内容は土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、14.3%であり、その内容も土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

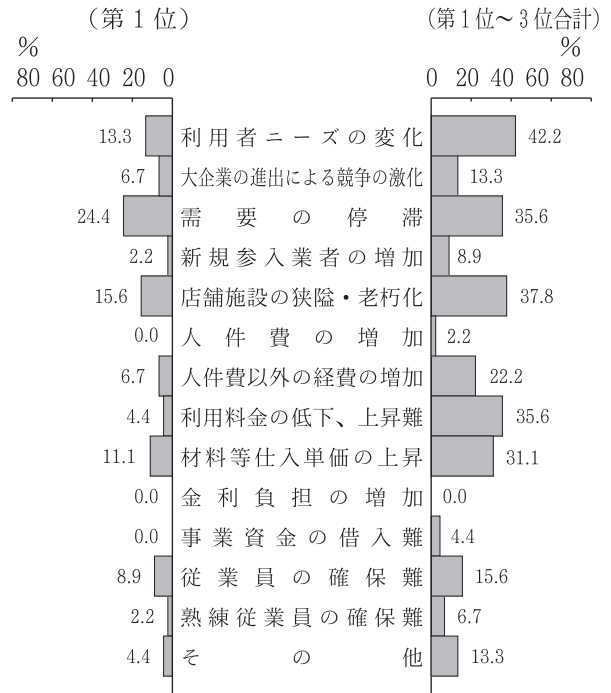


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(24.4%)
次いで「店舗施設の狭隘・老朽化」(15.6%)、
「利用者ニーズの変化」(13.3%)、「材料仕
入単価の上昇」(11.1%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「利用
者ニーズの変化」(42.2%(複数回答以下同
じ))次いで、「店舗施設の狭隘・老朽化」
(37.8%)、「需要の停滞」と「利用料金の
低下、上昇難」が同率の35.6%となり、「材
料等仕入単価の上昇」(31.1%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点

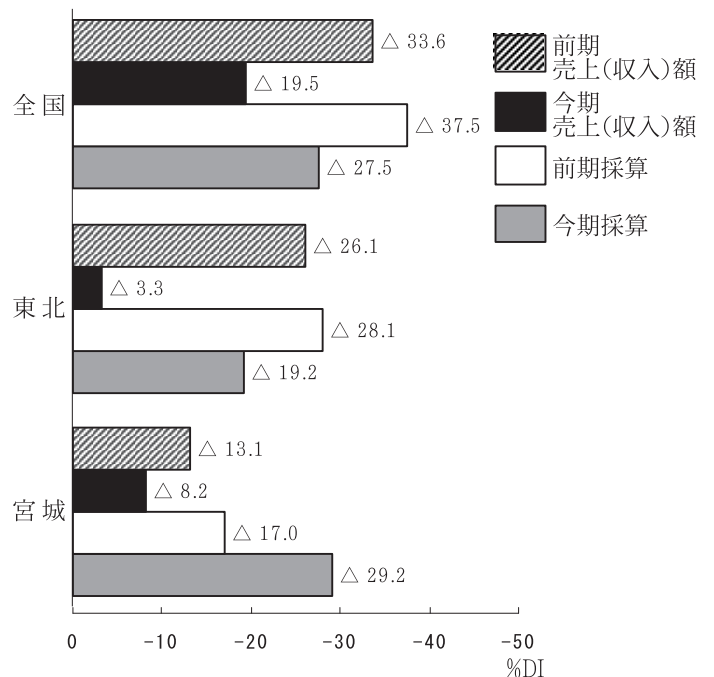


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国的に景気低迷が続く中、持ち直しの動きが見られ、全国、東北は売上額DI、採算DIを改善させ、特に東北の売上DIは22.8ポイント改善した。

本県は売上額DIを4.9ポイント改善させたものの、採算DIは12.2ポイント悪化させ、回答事業所から「東日本大震災後は収容人員を超える宿泊があったが、復興関連の宿泊も落ち着いてきている」(宿泊業)、「震災後一時的に新しいお客様が増えたが、人口減少が目に見えており不安である」(理容業)等のコメントが寄せられ、復興需要に陰りが窺えた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています